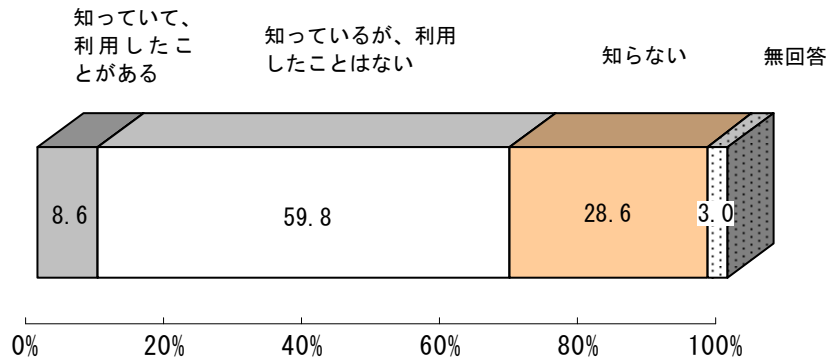


6. 消費生活センターについて

問 22. あなたは、消費生活センターを知っていますか？（○は1つだけ）

図 6-1 消費生活センターの認知度・利用状況

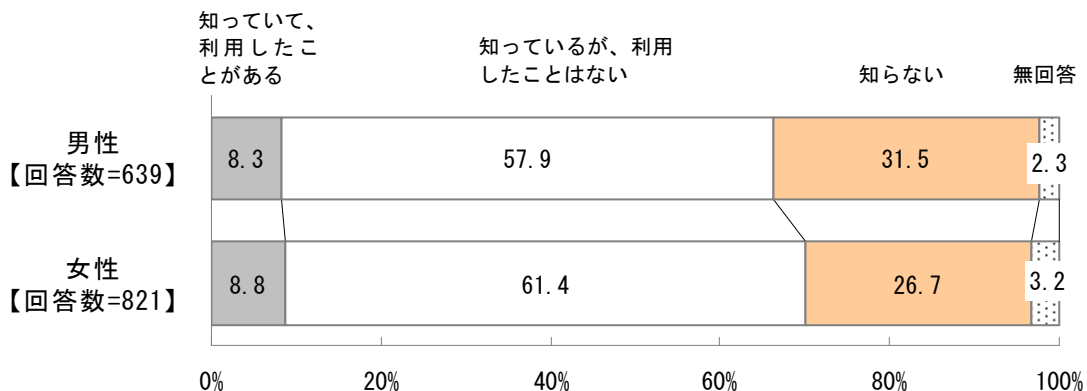


【回答数=1,481】

消費生活センターの認知度・利用状況をたずねた。「知っているが、利用したことがない」が59.8%と最も高く、次いで「知らない」が28.6%、「知っている、利用したことがある」が8.6%などとなっている。

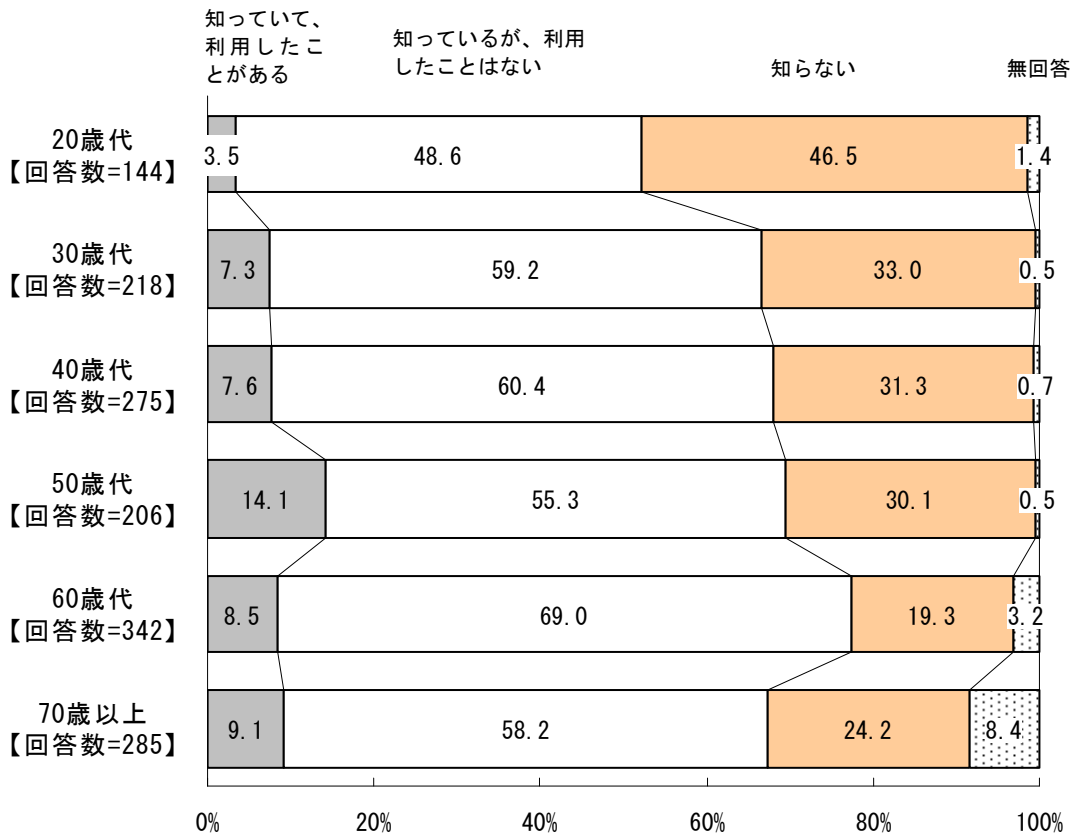
“知っている”（「知っている、利用したことがある」＋「知っているが、利用したことがない」）は68.4%となっている。（図 6-1）

図 6-2 性別 消費生活センターの認知度・利用状況



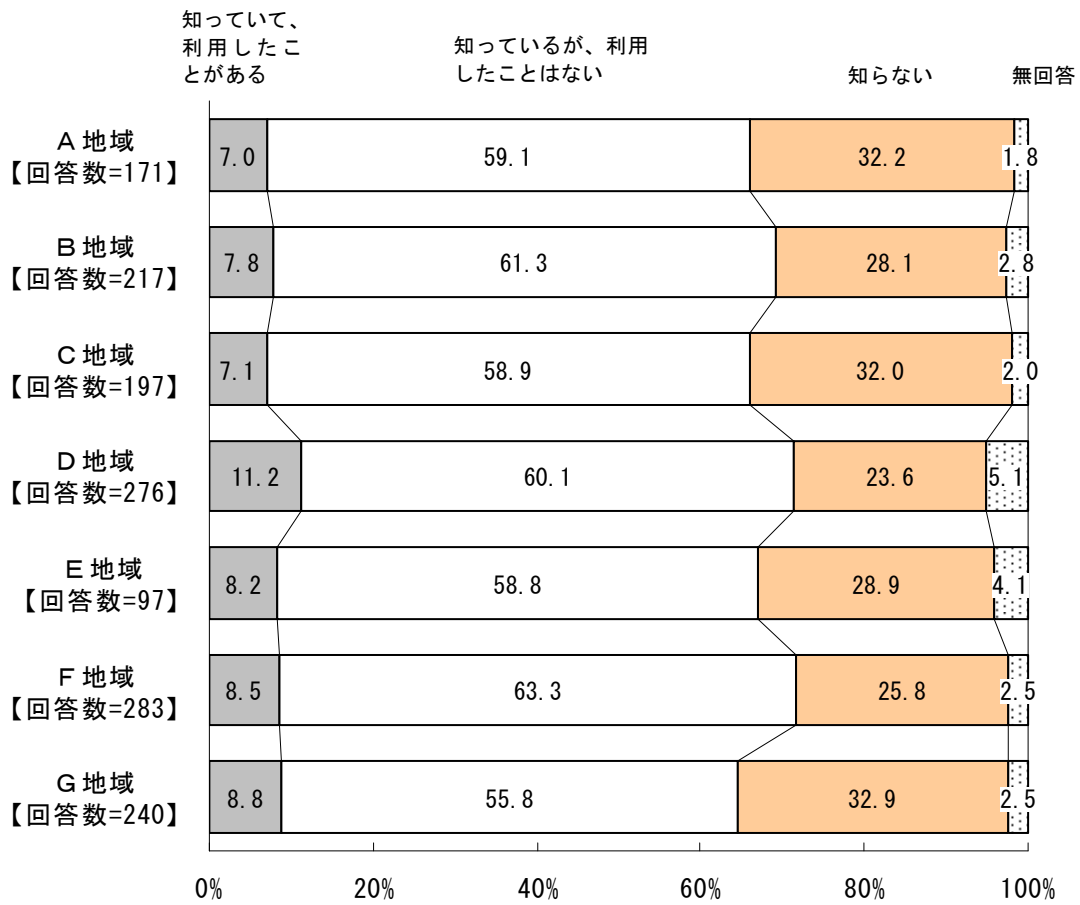
性別にみると、『女性』で“知っている”（「知っている、利用したことがある」＋「知っているが、利用したことがない」）が70.2%となっており、『男性』に比べ4ポイント高くなっている。（図 6-2）

図 6-3 年代別 消費生活センターの認知度・利用状況



年代別にみると、いずれも“知っている”（「知っている、利用したことがある」＋「知っているが、利用したことはない」）は半数を超えており、なかでも『60歳代』は77.5%と最も高くなっている。また、『50歳代』で「知っている、利用したことがある」が14.1%と全体（8.6%）に比べ高くなっている一方、『20歳代』で「知らない」が46.5%と最も高くなっている。（図6-3）

図 6-4 地域別 消費生活センターの認知度・利用状況

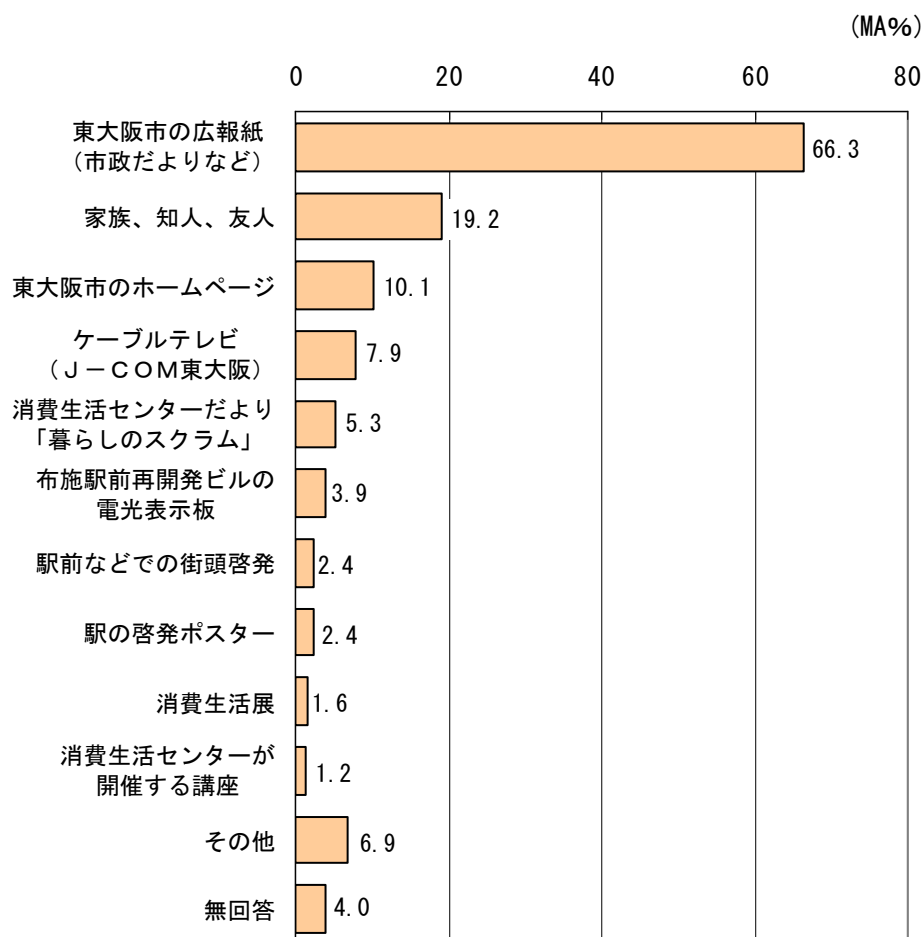


地域別にみると、いずれも全体と同様の傾向となっているが、消費生活センターのある『D地域』で「知っている、利用したことがある」が11.2%と最も高くなっている。『G地域』で「知らない」が32.9%と他の地域に比べ最も高くなっている。(図 6-4)

問 22 で「1. 知っていて、利用したことがある」「2. 知っているが、利用したことはない」を選んだ方におたずねします。

問 22-1. あなたは、消費生活センターをどのようにして知りましたか？
 (〇はいくつでも)

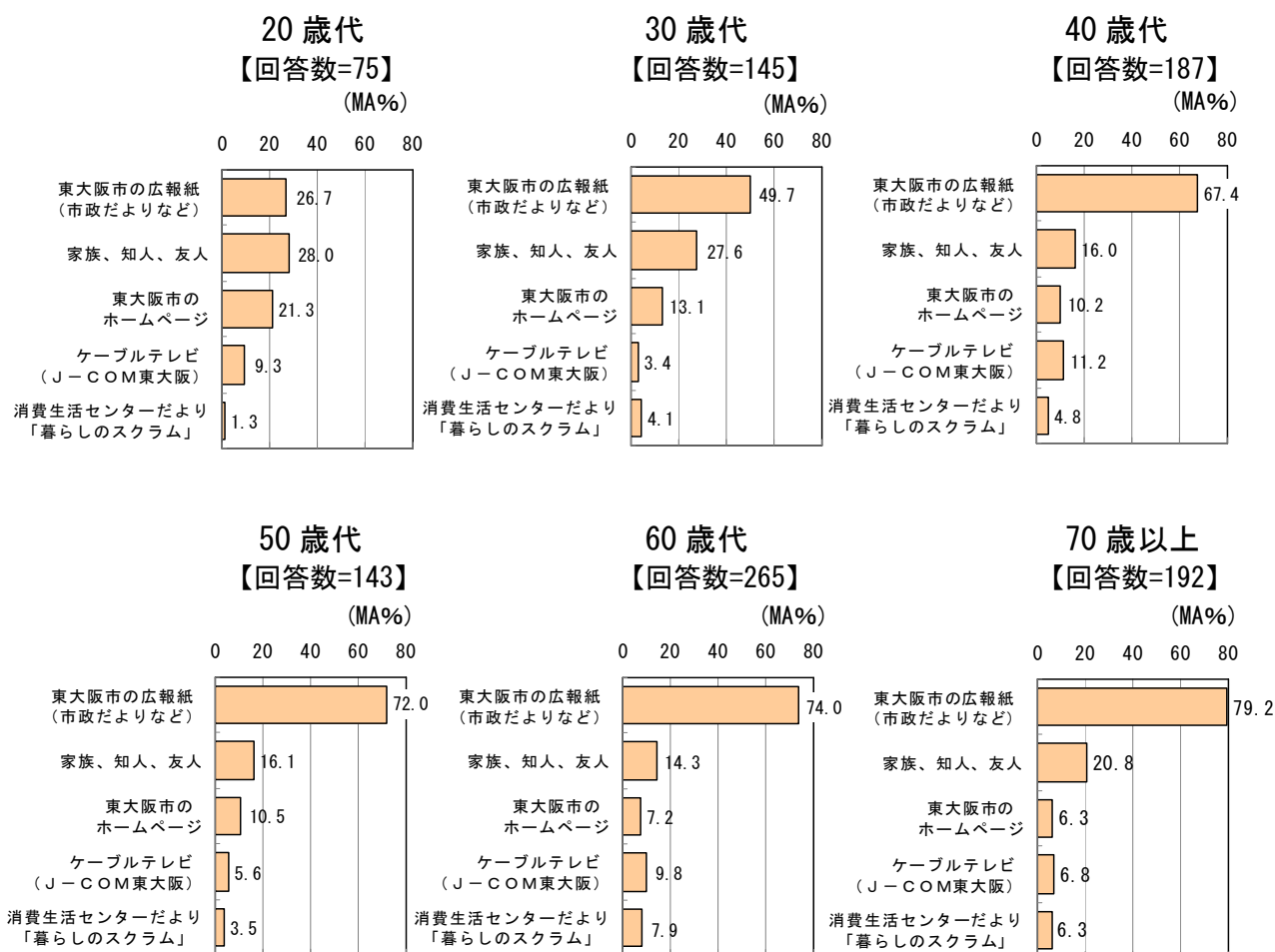
図 6-5 消費生活センターの認知方法 (複数回答)



【回答数=1,013】

消費生活センターを知っている人の認知方法をたずねた。「東大阪市の広報紙 (市政だよりなど)」が 66.3%と最も高く、次いで「家族、知人、友人」(19.2%)、「東大阪市のホームページ」(10.1%)、「ケーブルテレビ (J-COM東大阪)」(7.9%) などの順となっている。(図 6-5)

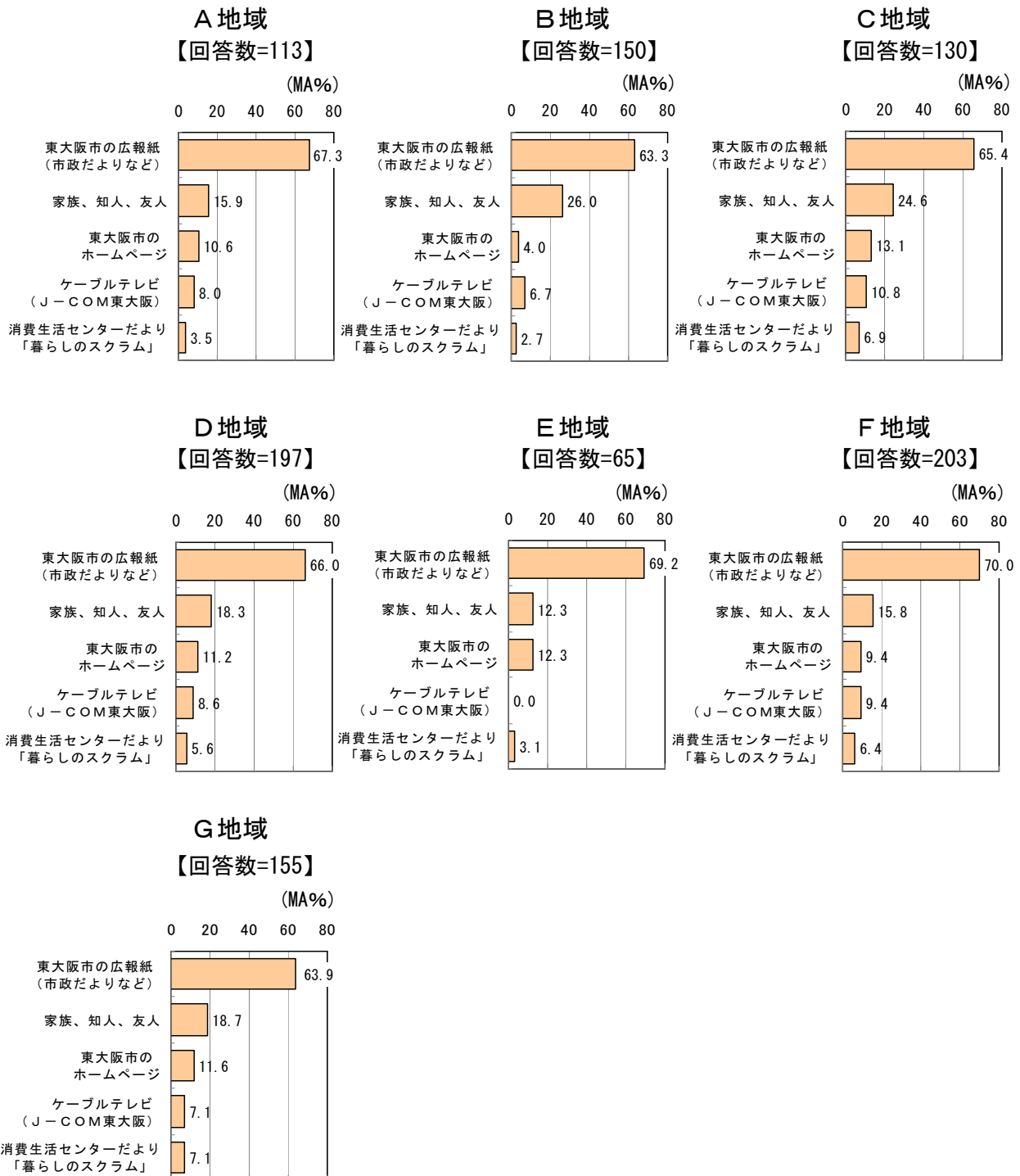
図 6-6 年代別 消費生活センターの認知方法【上位 5 項目】（複数回答）



年代別に上位 5 項目をみると、『20 歳代』を除き「東大阪市の広報紙（市政だよりなど）」が最も高くなっており、『70 歳以上』で 79.2%と最も高くなっている。

また、『20 歳代』『30 歳代』で「家族、知人、友人」が全体（19.2%）に比べ約 1 割程度高くなっている。さらに、『20 歳代』で「東大阪市のホームページ」が 21.3%と全体（10.1%）に比べ 11.2 ポイント高くなっているが、年代が上がるにつれ減少傾向となっている。（図 6-6）

図 6-7 地域別 消費生活センターの認知方法【上位 5 項目】(複数回答)

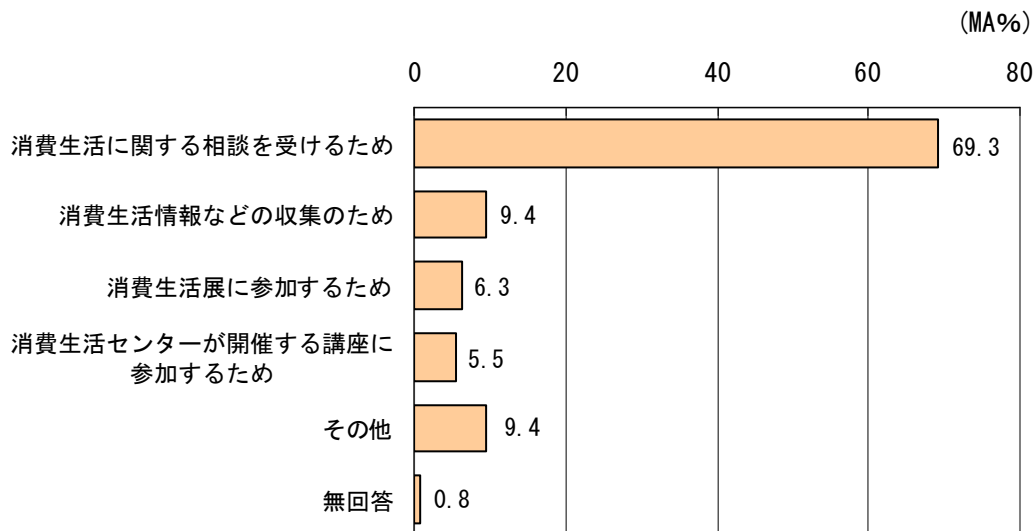


地域別に上位 5 項目をみると、『B 地域』で「東大阪市のホームページ」が 4.0%と全体 (10.1%) に比べ 6.1 ポイント低くなっている。『E 地域』で「ケーブルテレビ (J-COM 東大阪)」が 0%となっている。(図 6-7)

問22で「1. 知っていて、利用したことがある」を選んだ方におたずねします。

問 22-2. あなたが、消費生活センターを利用された目的は何ですか？
(〇はいくつでも)

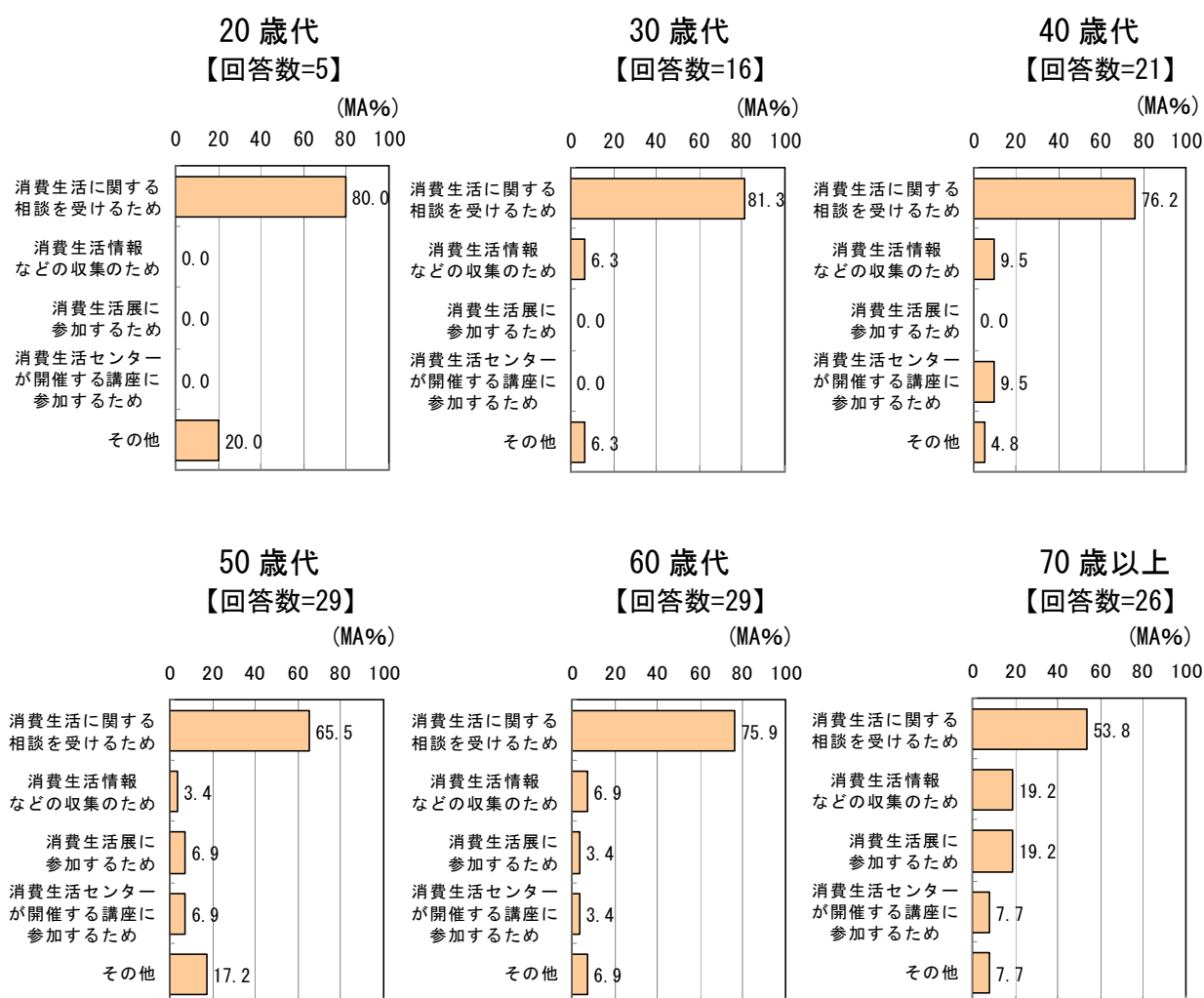
図 6-8 消費生活センターの利用目的 (複数回答)



【回答数=127】

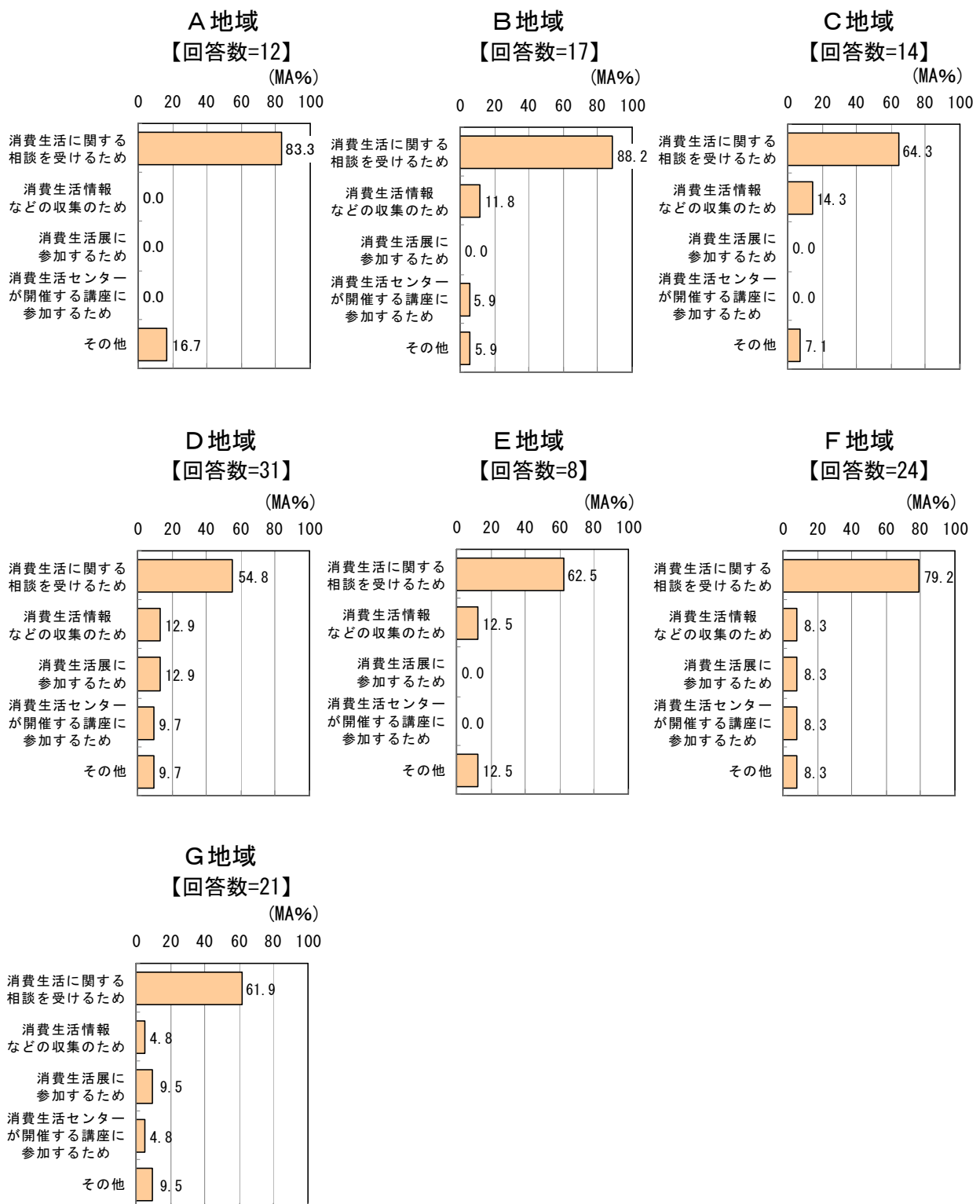
消費生活センターを知っていて利用したことがある人に利用目的をたずねた。「消費生活に関する相談を受けるため」が 69.3%と最も高く、次いで「消費生活情報などの収集のため」(9.4%)、「消費生活展に参加するため」(6.3%) などとなっている。(図 6-8)

図 6-9 年代別 消費生活センターの利用目的【上位 5 項目】（複数回答）



年代別に上位 5 項目をみると、いずれも「消費生活に関する相談を受けるため」が最も高くなっている。一方、『70 歳以上』で「消費生活情報などの収集のため」「消費生活展に参加するため」が同率で 19.2%と全体（9.4%，6.3%）に比べ高くなっている。（図 6-9）

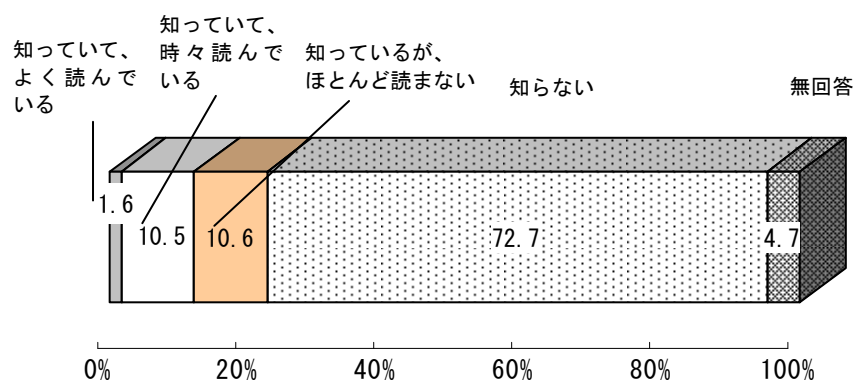
図 6-10 地域別 消費生活センターの利用目的【上位5項目】（複数回答）



地域別に上位5項目をみると、いずれも「消費生活に関する相談を受けるため」が最も高くなっている。なかでも『B地域』で88.2%と最も高くなっている。一方、『D地域』で54.8%と最も低くなっている。（図 6-10）

問 23. あなたは、「暮らしのスクラム」を知っていますか？（〇は1つだけ）

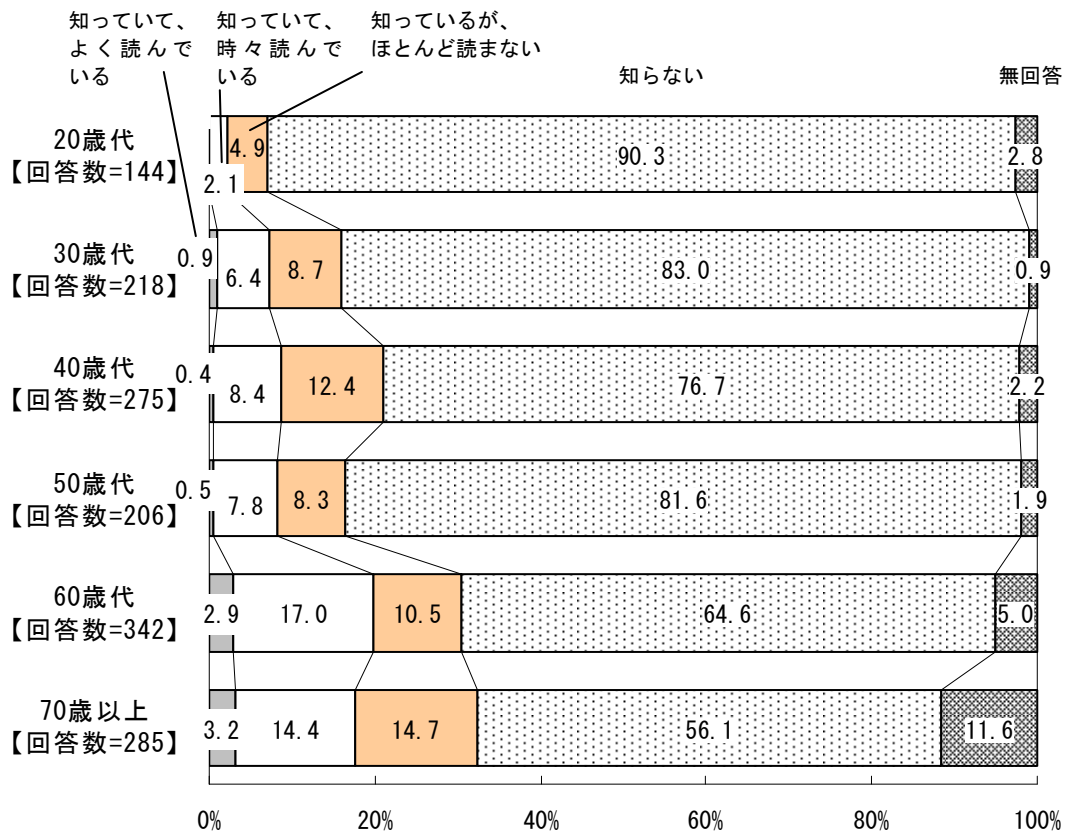
図 6-11 「暮らしのスクラム」の認知度・閲読状況



【回答数=1,481】

「暮らしのスクラム」の認知度・閲読状況をたずねた。「知らない」が72.7%で最も高く、次いで「知っているが、ほとんど読まない」が10.6%、「知っている、時々読んでいる」が10.5%などとなっている。“知っている”（「知っている、よく読んでいる」＋「知っている、時々読んでいる」＋「知っているが、ほとんど読まない」）は22.7%となっている。（図 6-11）

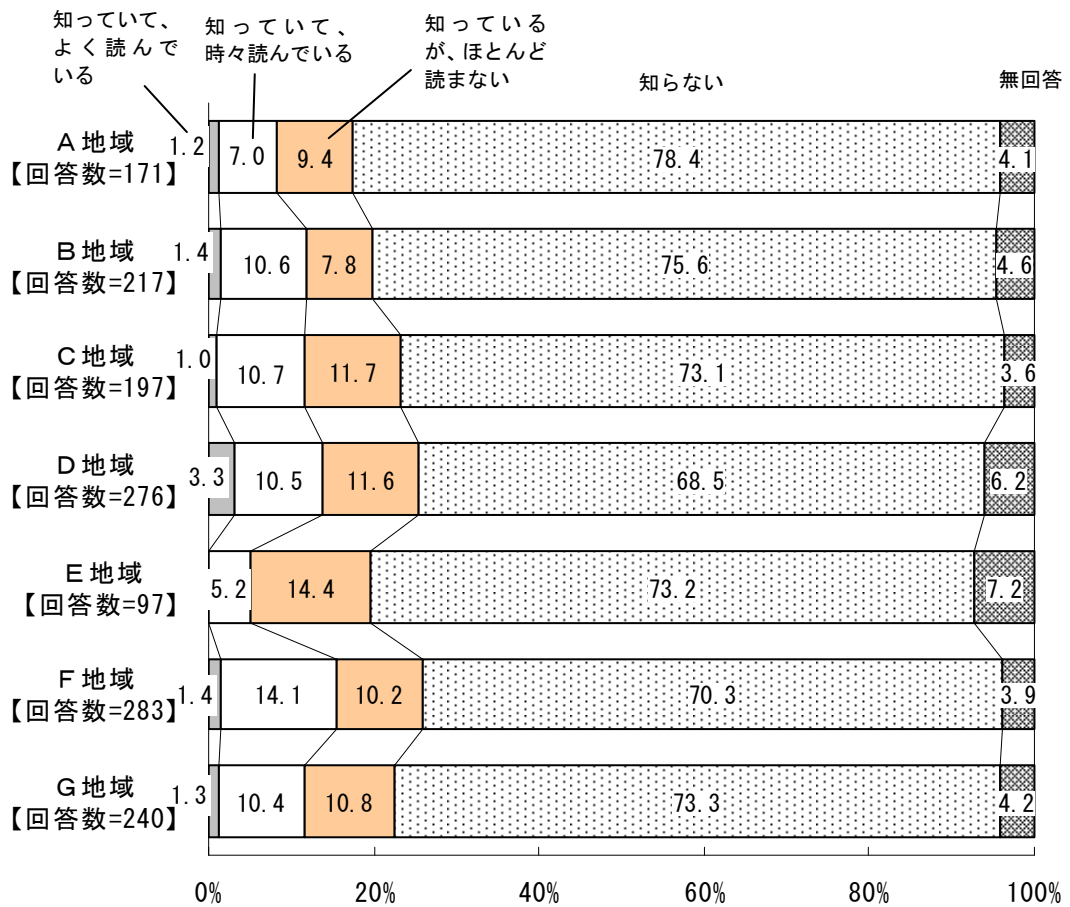
図 6-12 年代別 「暮らしのスクラム」の認知度・閲読状況



年代別にみると、『60歳代』で“読んでいる”（「知っている、よく読んでいる」＋「知っている、時々読んでいる」）は19.9%と最も高く、次いで『70歳以上』で17.6%、『40歳代』で8.8%などとなっている。

一方、『20歳代』で「知らない」が90.3%と最も高くなっている。（図 6-12）

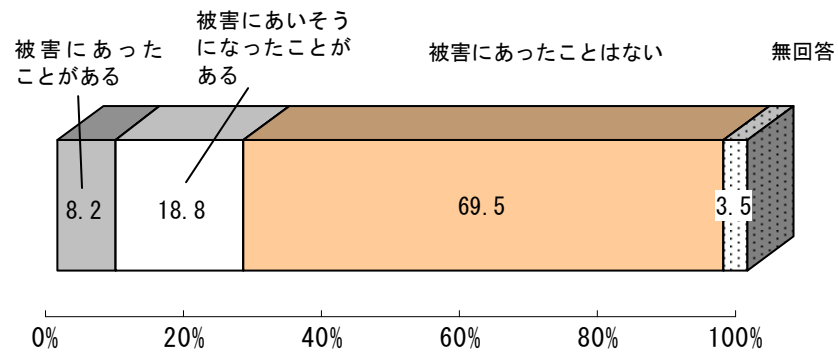
図 6-13 地域別 「暮らしのスクラム」の認知度・閲読状況



地域別にみると、『E地域』で“読んでいる”（「知っている、よく読んでいる」＋「知っている、時々読んでいる」）が5.2%と最も低くなっている。一方、『F地域』で15.5%と最も高くなっている。（図6-13）

問 24. あなたは、悪質商法の被害にあったことがありますか？（○は 1 つだけ）

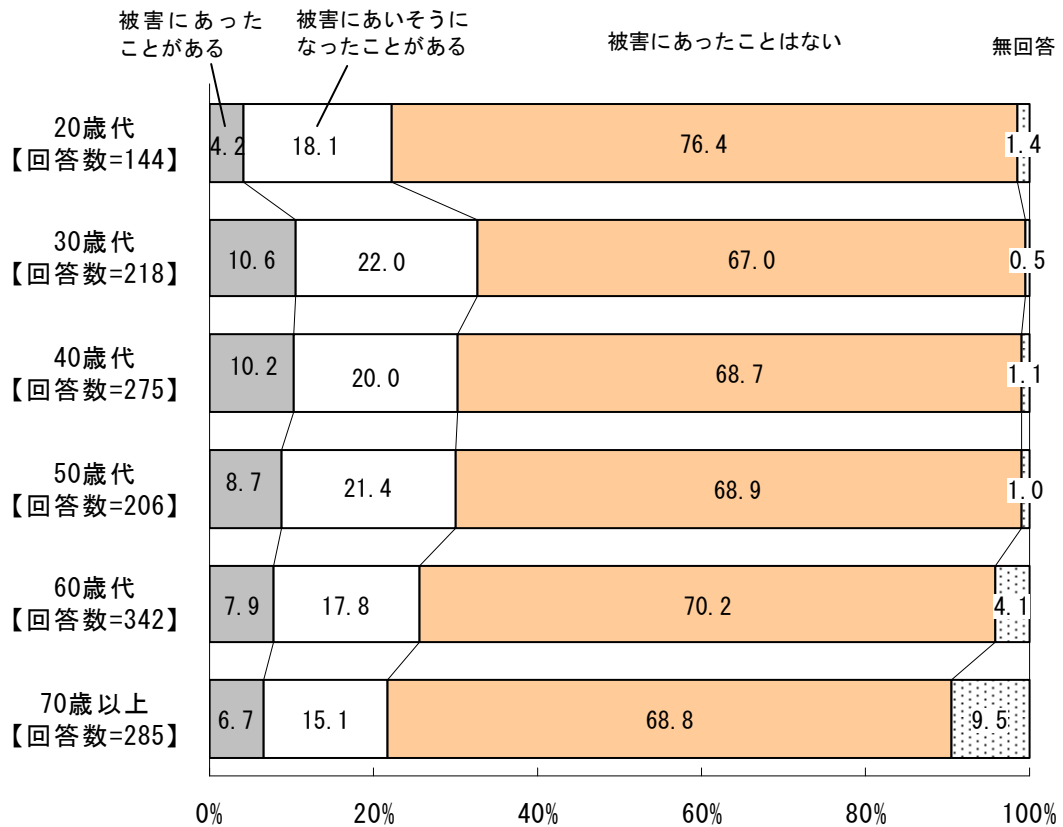
図 6-14 悪質商法の被害状況



【回答数=1,481】

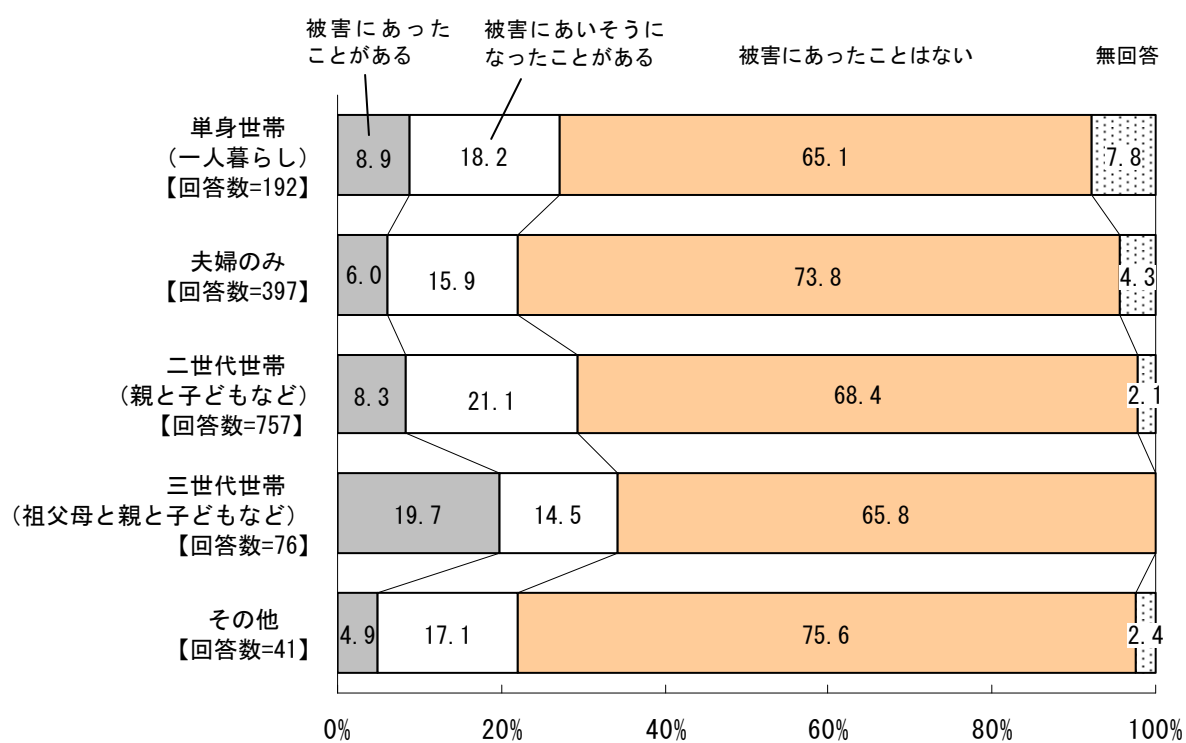
悪質商法の被害状況をたずねた。「被害にあったことはない」が 69.5%と最も高く、次いで「被害にあいそうになったことがある」が 18.8%、「被害にあったことがある」が 8.2%の順となっている。(図 6-14)

図 6-15 年代別 悪質商法の被害状況



年代別にみると、『30歳代』で「被害にあったことがある」が10.6%と最も高く、『40歳代』以上年代が上がるにつれ低くなっている。一方、『20歳代』で4.2%と最も低くなっている。(図6-15)

図 6-16 家族構成別 悪質商法の被害状況

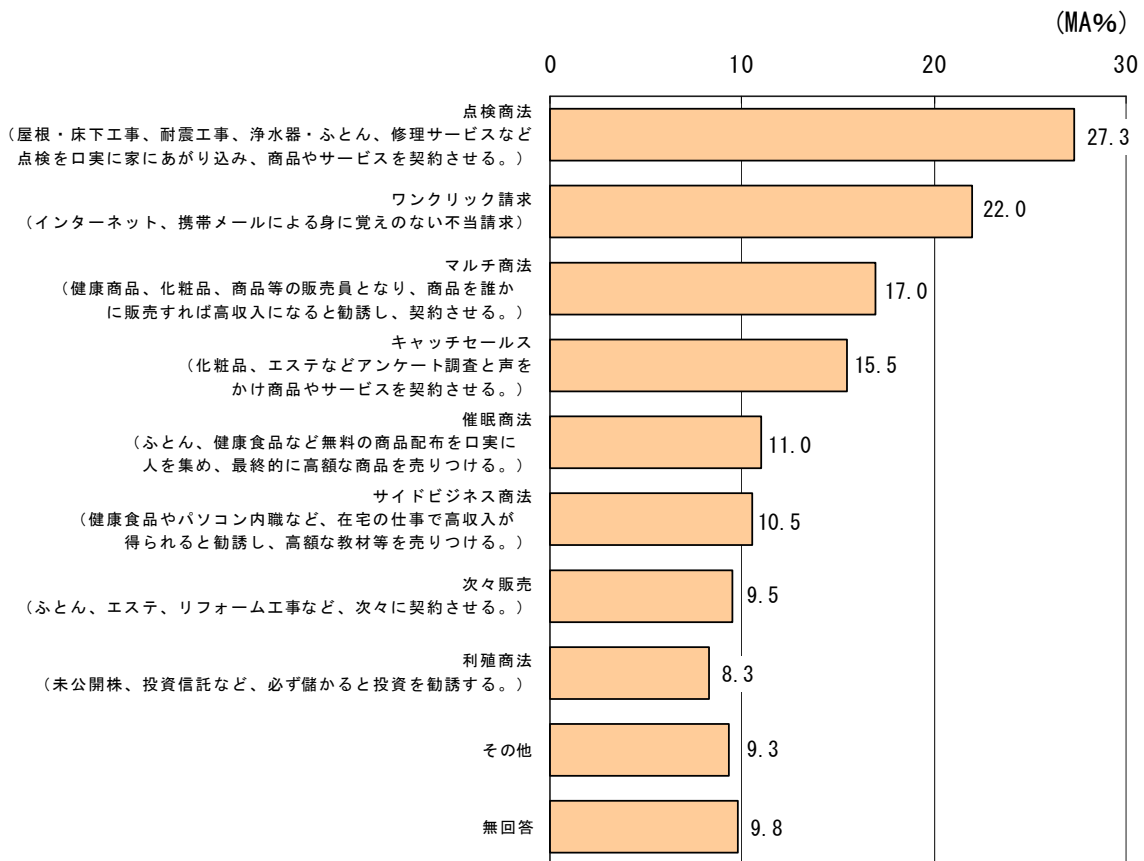


家族構成別にみると、『三世代会世帯 (祖父母と親と子どもなど)』で「被害にあったことがある」が 19.7%と最も高く、次いで『単身世帯 (一人暮らし)』が 8.9%、『二世代会世帯 (親と子どもなど)』が 8.3%などとなっている。(図 6-16)

問24で「1.被害にあったことがある」「2.被害にあいそうになったことがある」を選んだ方におたずねします。

問24-1. それはどのような悪質商法でしたか？(〇はいくつでも)

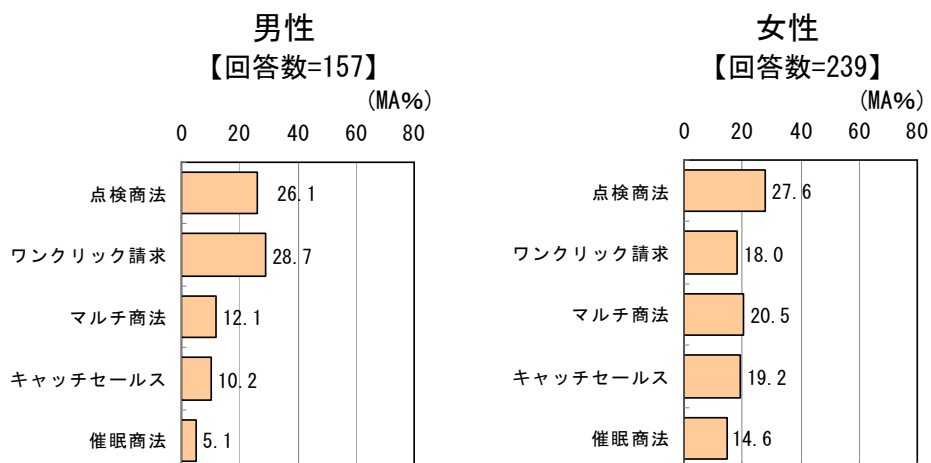
図6-17 被害にあったり、あいそうになった悪質商法(複数回答)



【回答数=400】

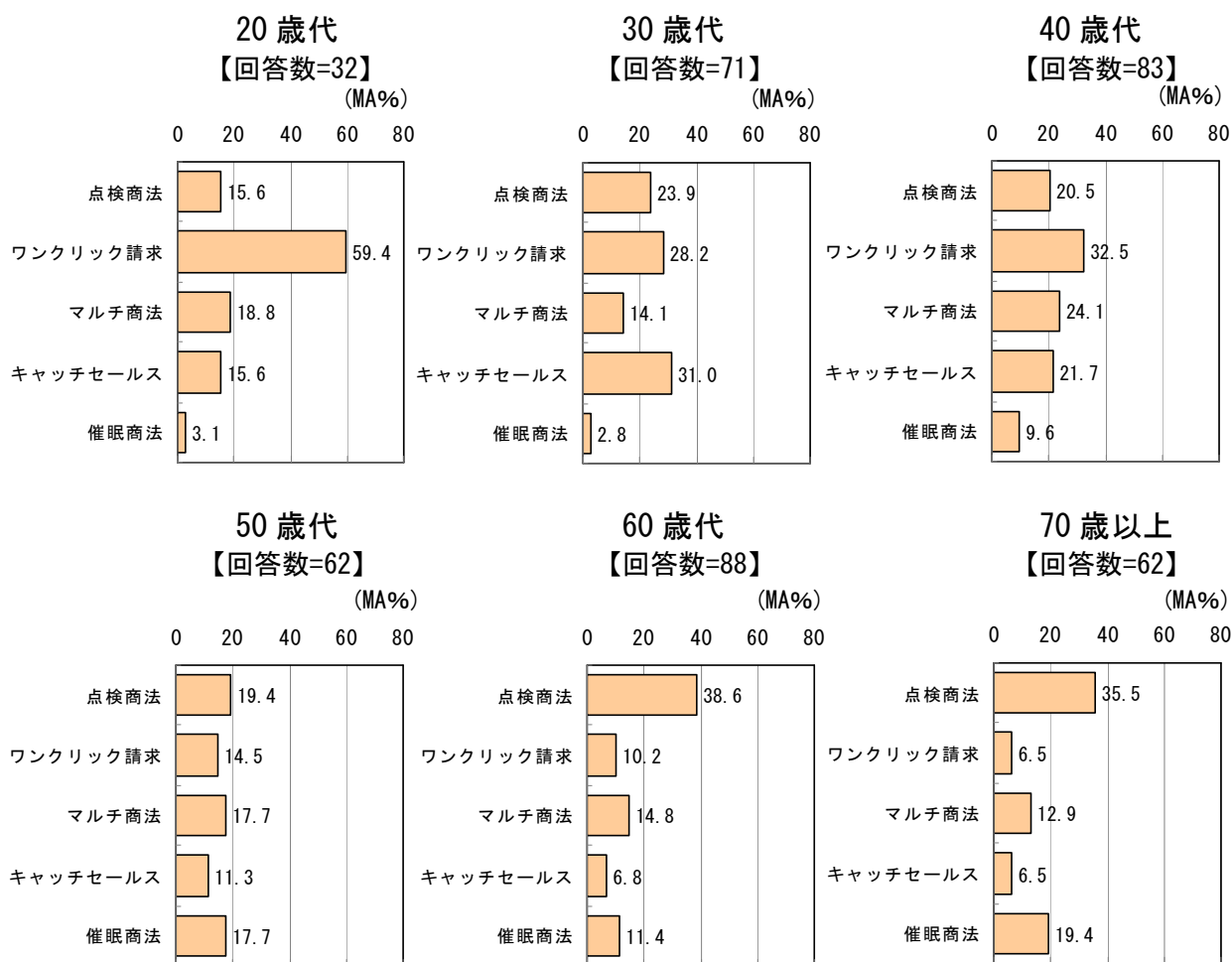
被害にあったり、あいそうになった悪質商法をたずねた。「点検商法」が27.3%と最も高く、次いで「ワンクリック請求」(22.0%)、「マルチ商法」(17.0%)、「キャッチセールス」(15.5%)などの順となっている。(図6-17)

図 6-18 性別 被害にあったり、あいそうになった悪質商法【上位 5 項目】（複数回答）



性別に上位 5 項目をみると、『女性』で「点検商法」が 27.6%、「マルチ商法」が 20.5%、「キャッチセールス」が 19.2%、「催眠商法」が 14.6%と『男性』に比べ高くなっている。一方、「ワンクリック請求」は『男性』の方が『女性』を 10.7 ポイント高くなっている。(図 6-18)

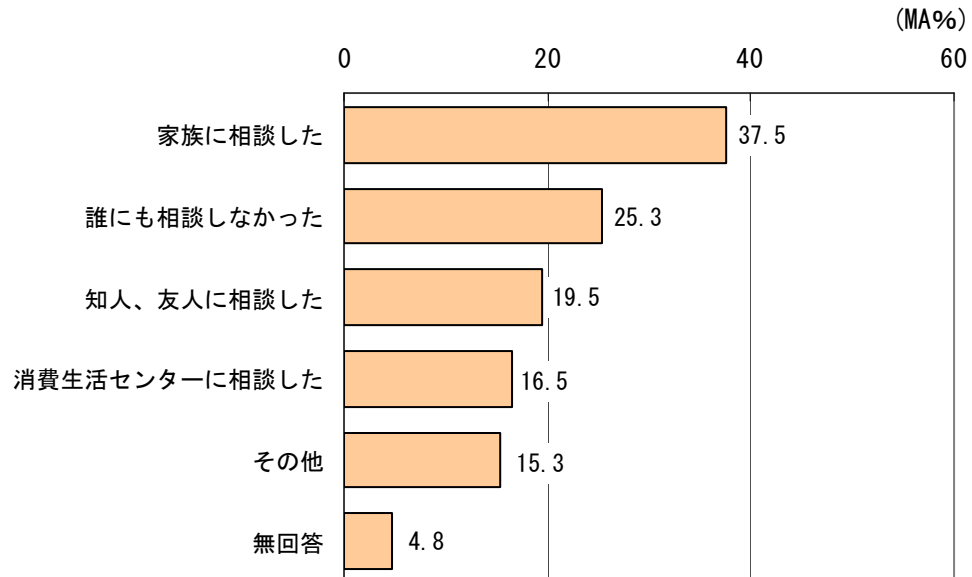
図 6-19 年代別 被害にあったり、あいそうになった悪質商法【上位5項目】(複数回答)



年代別に上位5項目をみると、『20歳代』から『40歳代』で「ワンクリック請求」が全体(22.0%)に比べ高くなっている。同様に『20歳代』から『40歳代』で「キャッチセールス」(全体15.5%)、『50歳代』から『70歳以上』で「催眠商法」(全体11.0%)、『60歳代』『70歳以上』で「点検商法」(全体27.3%)が全体に比べ高くなっている。(図6-19)

問 24-2. あなたは被害にあったり、被害にあいそうになったとき、どうされましたか？（〇はいくつでも）

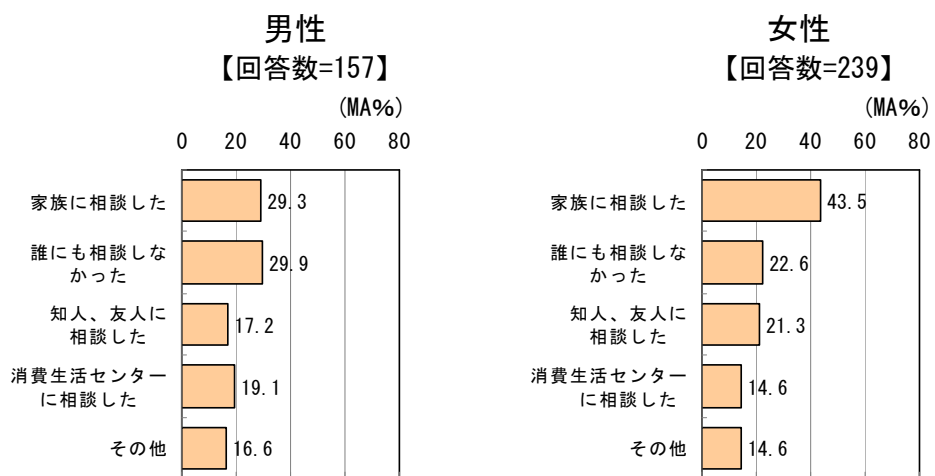
図 6-20 悪質商法の被害にあったり、あいそうになった時の対処（複数回答）



【回答数=400】

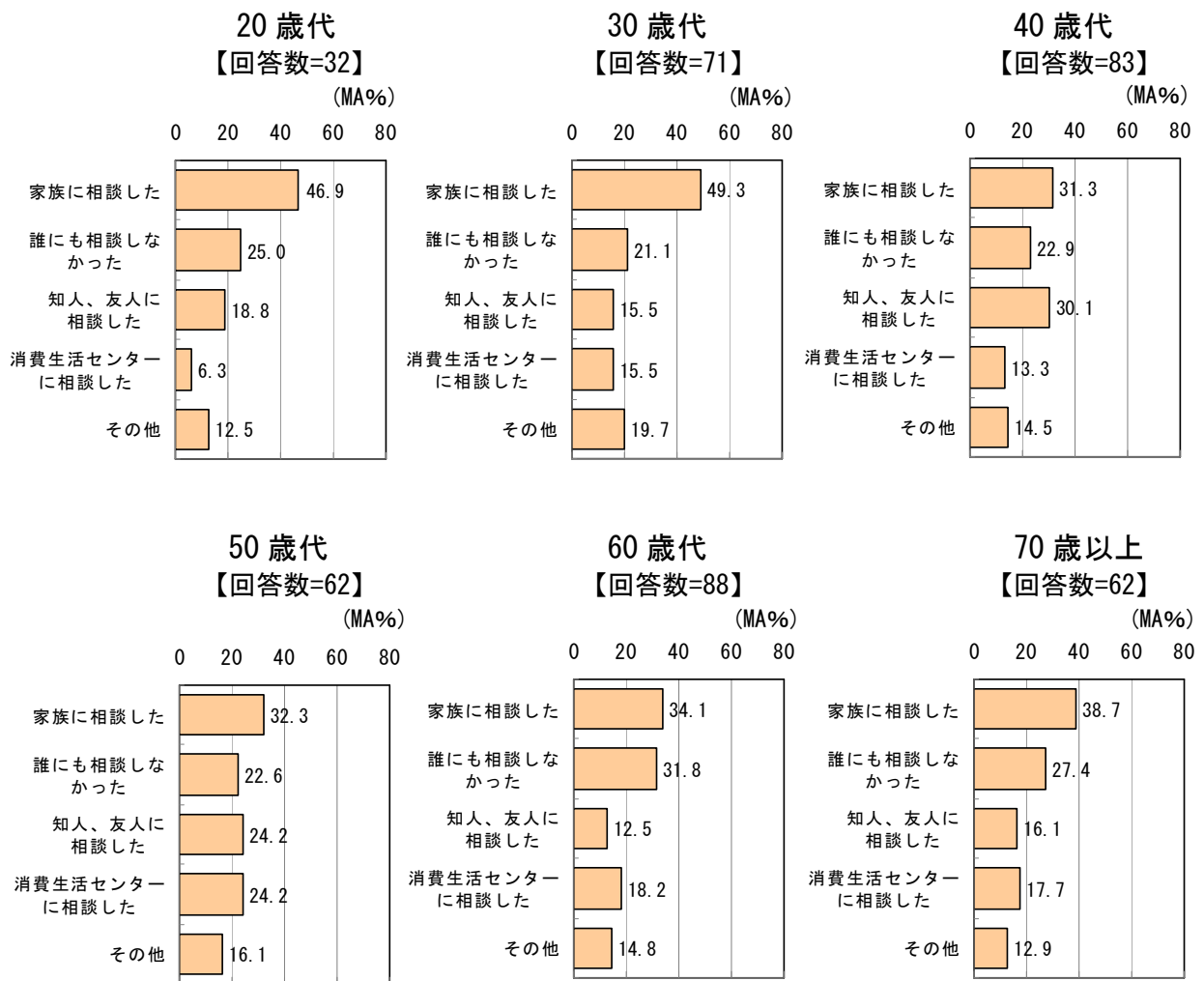
悪質商法の被害にあったり、あいそうになった時の対処をたずねた。「家族に相談した」が 37.5%と最も高く、次いで「誰にも相談しなかった」が 25.3%、「知人、友人に相談した」が 19.5%などとなっている。（図 6-20）

図 6-21 性別 悪質商法の被害にあったり、あいそうになった時の対処
【上位5項目】(複数回答)



性別に上位5項目をみると、『男性』は「誰にも相談しなかった」が29.9%と最も高くなっている。一方、『女性』は「家族に相談した」が43.5%と全体(37.5%)に比べ6.0ポイント高くなっており、『男性』を14.2ポイント高くなっている。(図6-21)

図 6-22 年代別 悪質商法の被害にあったり、あいそうになった時の対処
【上位5項目】（複数回答）



年代別に上位5項目についてみると、『40歳代』で「知人、友人に相談した」が30.1%と全体（19.5%）に比べ10.6ポイント高くなっており、『20歳代』で「消費生活センターに相談した」は6.3%と全体（16.5%）に比べ10.2ポイント低くなっている。（図6-22）